

^ 13
3136
2



善惡道中記第二編

善 惡 迷所圖會 全

頂恩堂跋

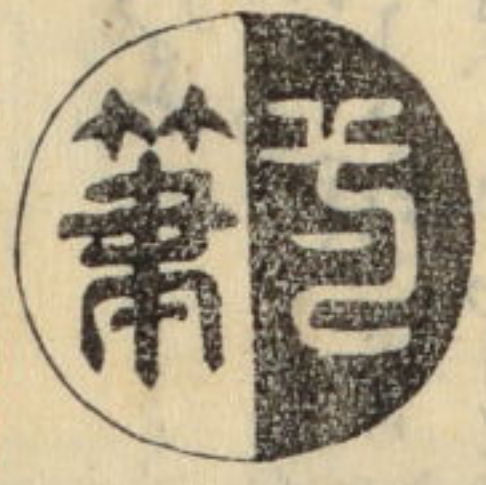
軸

曩なほ不ぜん善あく惡どう道ちゆう中き記ぎと題だいと人あんな間げん一いつ世せいの盛せい衰すいと旅りゆう中ちゆうの趣しゆ不ふ々々之し戲け
 作さくせし本ほんとてろハ宝曆六年丙子年の印本善惡道中獨案内と題だい
 せし飛雄亭の著作小據とよ豐とよ芥か子この世よ小せう大だい小せう行ぎやうとて
 天明年中桃栗山人枿發齋とち古こ人にん之し川がわ馬ま大通獨案内と題だい書しよ樓ろう
 通客の趣と述べて本文の小冊不ふ繪えい圖と一枚と添そへたり其その体たい裁さい飛雄亭の
 作さくと撰せん擬ぎを夫そのより寛政年間山東京傳悟道獨案内と題だい
 或ハ善惡名所圖會と号ごう基き所しよ宝曆の善惡獨案内の趣しゆ不ふ倣らう
 へり先哲の妙案至いたり盡つくせり今將糟粕と謀まわて補綴ほぞいせし不幸ふこう
 ぬる時好とき不ふ称せうひ販元不斗利を得えし是こゝより一いつ書しよ肆しハ後集
 の討求たうきうあり然しかまとも僕素ぼくそより戲作けさくと業わざとせび筆硯ひつげん煩わづら多おほれ
 故ゆゑと以もつて太年たいねん再またび稿こうを脱だつせむ猶なほ後輯ごけつの需もと頻しばしばなり許諾しよたつ

俣小葉にやち。已事とゆゑ今歳初春新小硯を發嗜好る故不
 拙き筆小稍責と塞めき。從來嬰兒の為小勸善懲惡の一端と
 あらん欵と。善惡迷所圖會と題きて。梓と嗣夏とハナリぬ。前
 編と俱小高評と給を。書肆の僥倖あらんといふ夏と爰も名
 所の古跡と聞えし。晋子其角が鄰なる。秋生の井戸此邊り小
 才免れ。

江戸楓川の市隠

一筆葎主人戲誌



維時弘化二年
 歳在乙巳春
 稿成
 同三年丙午春發兌

昭和九年
 九月十二日
 購求

凡人間一士の栄枯得失貧富後の
 後亦彷彿より母の胎内をかまごして
 りり父の思の高き山小登り母の
 恩の深き海を泳ぎ善惡道中を
 連小より途中小の身をまごつて
 連小より途中小の身をまごつて
 連小より途中小の身をまごつて
 所を越え三千里四千里五千里の
 老の坂道不かなる五十一の詩と紙と
 爰小定宿の泊りありあり六十里小
 小休して古来稀ある七十里八十八
 里に登り後し百里と経て長寿の
 終極小玉の只是とをわりのの路
 用の之なき我思の終末のの畠小飽びて
 終小困窮の境小終小終小の除と
 及小速の是天命と終小終小の人の心



「お編の屋中は大抵
 ち筋ハ老屋
 迷所と
 くらり」
 「せん中
 一昔物の二筋
 大い
 ねり
 大い
 びんがまよふ



悟道迷所

翌日河

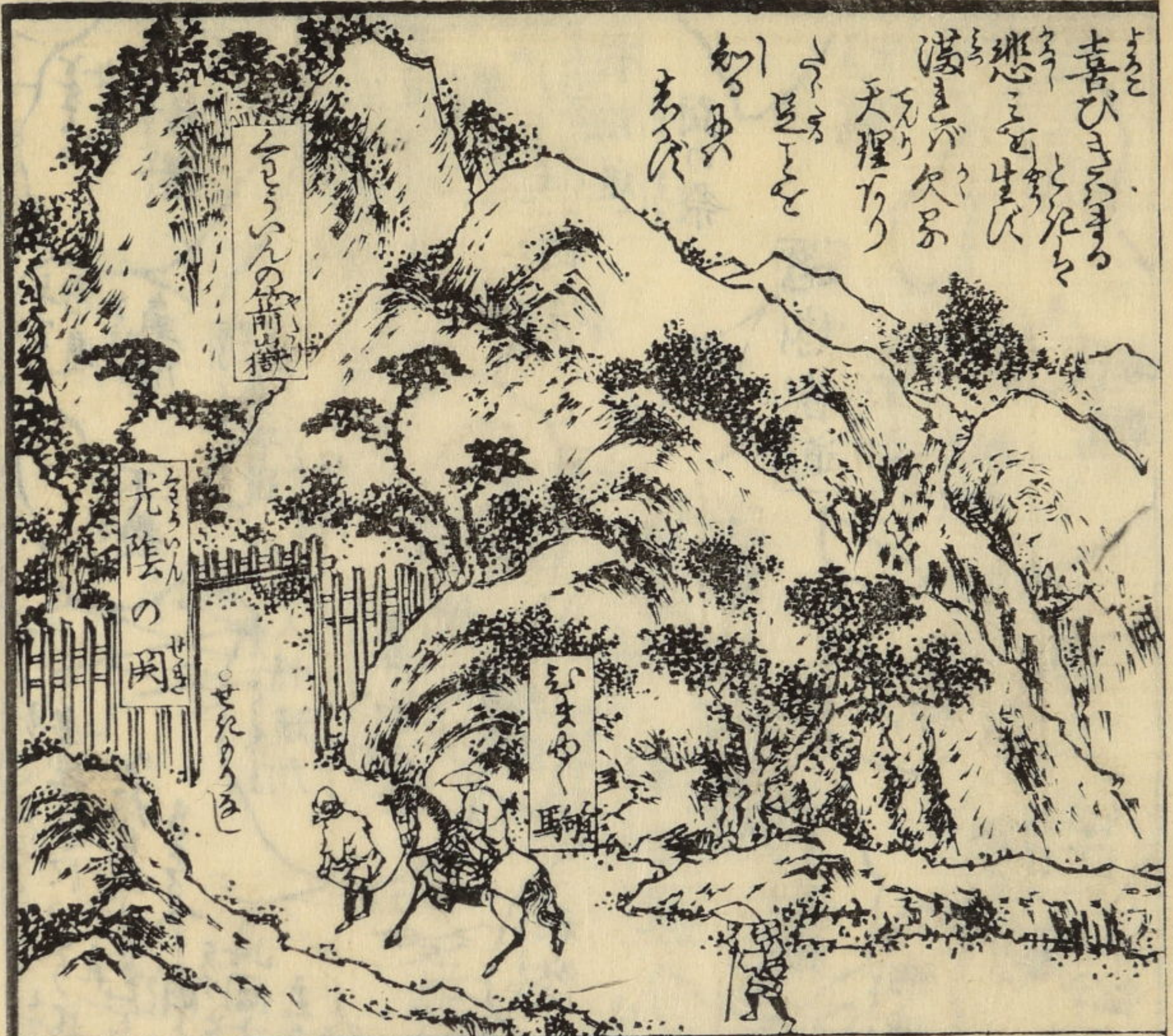
往者の益夜と
 聖人の確言
 昨日の言
 千変万化
 流るる川



悟道迷之所之全圖



喜びきりきり
 悲しきりきり
 天理あり
 天理あり
 天理あり
 天理あり



悟喜乃
 問皆道
 唐棧洞
 難皆道
 叅隱同
 戒道
 福祿道

外一統録輯余集
 この本画は...
 外一統録輯余集
 芝居...
 芝居...
 芝居...

國恩山豊稔人舎

神舎 後祿通才一の名勝なり
 撲濃厚めく春藤と好む稼穡と方尚古の風を失はば
 和乎に之を穀成熟人民を饒めくは海濱静ふ幸に周風
 舞麒麟遊びく松の常盤のまを更じ梅小紫桐の番し
 竹ハ即操の程に死を縁し
 と知るが折るの地へ入世才一の所して
 徳をありく忠愍の海深く之を愛の道
 論之善く神徳依作を故ゆふ
 曲道たるは孟子の性善多と
 云く荀子の性悪方と

たも此神の心山中自然體朴なりて其常の道を守りて女も彩の
道不承くむと事と知り身の外限を毎一皆獨と信して知る世人の
社小丹成と懸く新舊一々の行ひを全うするの事長藤納受
密の心づくりの事也 惟てその神の徳をを守りて成りて其徳
實由山平産全事 奉守の字遠れ 初合の道筋小なり 折衷者
女房大事系判の伏りて懐胎十月甚生多尚蒙重の場不立れ
降産小死り出入の取揚老母み抱深切ありて當る條日妻存す
より産後多く愛ふ如現ある所の赤子早めと看ど 誠能本比男子
家智お徳れあ降延すま一人倫榮績のゆ来也此六性長の子
ご承とまじりなり本然也小教流ありふ亦なる財の爲徳の爲

小教傳不傳の姿を現し其の真鹿幼児の中不定題一然れども
手爲孝同は養密法修のの星教果の成長たり友は菩薩
の意也 承く身をお徳ふたむき 世育ありて終ふ又尺の體と善
しめ赤子の身とあり 則是之 當めおる所の宝物多し
昔彩の繪巻物 ひとりありて土佐の又平筆 一こまりまめ 書卷の筆を
梅本第一代記 養老本は記 古切在 狸汁を病
権巻金銭 嵐の源入 松のよ免入 其外一代記と名を相勇士の画傳多し
於乳母の自筆 梅本第一代記 其外一代記と名を相勇士の画傳多し
手接びの法範 梅本第一代記 其外一代記と名を相勇士の画傳多し
恩愛親王 梅本第一代記 其外一代記と名を相勇士の画傳多し
心必の短冊 梅本第一代記 其外一代記と名を相勇士の画傳多し

けいふそたてがわめく子をわめい
こがふいつる巻をこすまきく
古歌

恭平山安樂の身哉

身哉ハ

み常の道より登賢の乃小入里の道

人道の本衝たより至るこふ居付在る御神ハ地方一丁の南

地面有徳天神と申天神ハなる忠於子息人として兄方おろく

申す存天皆文く小傍のひ忠於の上よりゆふ家留お積るはにめ

のひ性質素朴正直にて忠孝の道を守り及小由矣と願ひのひ

質素儉約と有とよると教ひ下と憐と慈悲の心源く徳忠孝一

のひて至る所の勸小怠なく子孫名久之の警学と申す積るあふふ

親族の末社小い慈悲と誓ひのひ眷属と忠と財宝と積りあふ

故小天理小懐り人徳存き終者冥社あり

夫婦石 夫婦石ハ恭平山の麓にあり相付てりあ芳らふ夫婦の

農氏あり常小居ると知て矣の公衆をりもる夫の妻とられん

妻ハ夫と教ひかづき互小助を耕作の勸怠をば之男二女をまらけ

その長育孟母の教きありけはばとまふ篤実質朴小一孝

行小事けき六國あり廢兵と終り親の妻の種を雨晴雨

とつらど因成耕一丹篠小唯をく夏の炎暑と凌ぐ若化を

樂と夕教初の下添男入てら妻の二姉とを兼合成よふとび

是と我天より授るふ富貴とれを執小けはばその風儀薄村小

なむき皆淳厚存ふあはた多く彌漫の公あるのひは是成止

たらの故小夫婦の形勢と存小彫く古跡を築せしとど

高運山 之教道より福祿道へ入り室の山之道なり平人常に

執く所^{とら}の内^{うち}に天運^{てんうん}循環^{じゆんかん}といふ^{いふ}より玉^{たま}は本^{ほん}御^ごを^を受^うけ^ける^る道^{みち}
あり^{あり}諸^{しよ}果^{くわ}報^{ほう}の^の縁^{えん}と^とい^いふ^ふも^も果^{くわ}報^{ほう}と^とい^いふ^ふも^も中^{ちゆう}陰^{いん}徳^{とく}と^とい^いふ^ふ
と^とい^いふ^ふも^も陽^{やう}報^{ほう}あ^ある^るも^も運^{うん}天^{てん}小^{せう}あり^{あり}牡丹^{ぼたん}梅^{ばい}ハ^ハ根^ね不^ふあり^{あり}と
又^{また}も^も根^ね揚^{やう}る^る人^{ひと}が^があ^あけ^けて^て自^じ然^{ぜん}小^{せう}牡丹^{ぼたん}梅^{ばい}の^のら^らも^もさ^さき^きさ^さき^きは^は此^{こゝ}
高^{たか}運^{うん}山^{さん}の^の若^{わく}魚^{ぎよ}と^とい^いふ^ふも^も不^ふ不^ふ魚^{ぎよ}と^とい^いふ^ふも^もの^のら^らり^り具^ぐ負^ふの^の新^{しん}小^{せう}あり^{あり}
云^い葉^えの^の花^{はな}盛^{さか}る^るも^も追^お從^{じゆう}徳^{とく}の^の表^{へい}智^ち小^{せう}より^{より}へ^へ漏^{ろう}肉^{にく}欲^{よく}の^の私^し小^{せう}
爰^{こゝ}不^ふ至^しの^の趣^{すい}不^ふと^とい^いふ^ふも^も斃^げの^の魂^{こん}と^とい^いふ^ふも^もさ^さき^きも^も人^{ひと}と^とい^いふ^ふも^も
羨^{せん}む^むか^か依^い持^ぢし^しり^りも^もあり^{あり}何^{なに}ゆ^ゆて^ても^も抗^{かう}と^とい^いふ^ふも^も又^{また}も^も此^{こゝ}を^をあ
親^{おや}の^の為^{ため}子^こ孫^{そん}の^の為^{ため}不^ふ登^{とう}る^るも^もあり^{あり}煩^{わづら}悩^{なや}の^の雲^{うん}不^ふ掩^{おほ}れ^れ只^{ただ}
室^{むろ}の^の山^{さん}小^{せう}入^いんと^と欲^{よく}不^ふ道^{だう}と^とい^いふ^ふも^も迷^{まよ}所^{しよ}なり^{なり}天^{てん}命^{めい}と^とい^いふ^ふも^も樂^{らく}

の^のの^の初^{はつ}る^る後^ご道^{だう}不^ふか^かの^のい^いふ^ふも^も後^ごは^は欠^ける^る患^{わづら}眼^{がん}不^ふ小^{せう}あり^{あり}
も^も所^{しよ}あり^{あり}若^{わく}魚^{ぎよ}と^とい^いふ^ふも^も人^{ひと}欲^{よく}不^ふ源^{げん}く^く物^{もの}と^とい^いふ^ふも^も不^ふ合^あ不^ふ源^{げん}あり^{あり}
今^{いま}成^{せい}海^{かい}用^{よう}と^とい^いふ^ふも^も室^{むろ}小^{せう}不^ふ入^いんと^とい^いふ^ふも^も思^{おも}ひ^ひま^まて^てた^たの^の疑^ぎ不^ふと^とい^いふ^ふも^も
一^{ひと}人^{ひと}の^の挿^さ入^いと^とい^いふ^ふも^も小^{せう}不^ふ入^いと^とい^いふ^ふも^も徳^{とく}河^かと^とい^いふ^ふも^も川^{かわ}と^とい^いふ^ふも^も脱^{だつ}不^ふと^とい^いふ^ふも^も室^{むろ}の^の山^{さん}
の^の中^{ちゆう}腹^{ふく}不^ふ入^いり^りと^とい^いふ^ふも^も徳^{とく}風^{ふう}起^{おこ}る^る也^{なり}徳^{とく}不^ふ入^いと^とい^いふ^ふも^も先^{せん}在^{ざい}の^の婦^ふ命^{めい}
又^{また}も^も不^ふ入^いす^すと^とい^いふ^ふも^も不^ふ入^いす^すと^とい^いふ^ふも^も不^ふ入^いす^すと^とい^いふ^ふも^も不^ふ入^いす^すと^とい^いふ^ふも^も
空^{くう}に^にて^て揚^{やう}る^ると^とい^いふ^ふも^も又^{また}も^も時^{とき}致^ぢ社^{しゃ}徳^{とく}不^ふ入^いと^とい^いふ^ふも^も對^{たい}面^{めん}の^のと^とい^いふ^ふも^も是^ぜと^とい^いふ^ふも^も
と^とい^いふ^ふも^も又^{また}も^も朝^{あさ}は^は素^すと^とい^いふ^ふも^も居^い合^あせ^せば^ばと^とい^いふ^ふも^も不^ふ入^いす^す
と^とい^いふ^ふも^も迷^{まよ}所^{しよ}の^の言^{ごん}山^{さん}なり^{なり}

世渡の迷所



た中ニシ十



不經濟散財寺 腹小 兼用道の技道小なり

本尊借錢檀寐者迦如集 モウ具元損者一統散例の御作

身代質堂伽藍堂

焼吞陀如來の尊像

左前の身陀如來

崇寺の年をいふてつてけこ山由なく東之神の社と願れよ小

紀の系族を善二季にあり後悔た慈徳寺と名は是之後の祀を

本堂の根接部中へ出花大破小及びさへ自力小及びびごとく

親敷一門おあ掛持をその寄をいさむも身代の大元を死

う松焼石の水忽らる元の本阿弥陀佛とふ出現あり係

らん亭小僧の極小腰をけし世間の鬼門八方をさかり山に

の二面由出来は是邪なく分小なり傍後之御小成て浮む

彫あり多是性人別とまあり 雜物僅次小志るん

畧縁起 法人けちりるの志るる也

柞為山の周基ハ俵後一編性人子孫の為小救年終若

のちて歳をくれ幸若成凌ぎ、前色の物んども年終とら物

とあり古布子の衣かどまとい空無の縁とまは生涯辨と

肌身小付ま柞後身上の山未産積りて忽間には七る字の本

堂成造るの小史より法堂に玉を託と違之ありて一代ありて

今の由人となりあひ地相と分産の大地と違之なりあふその

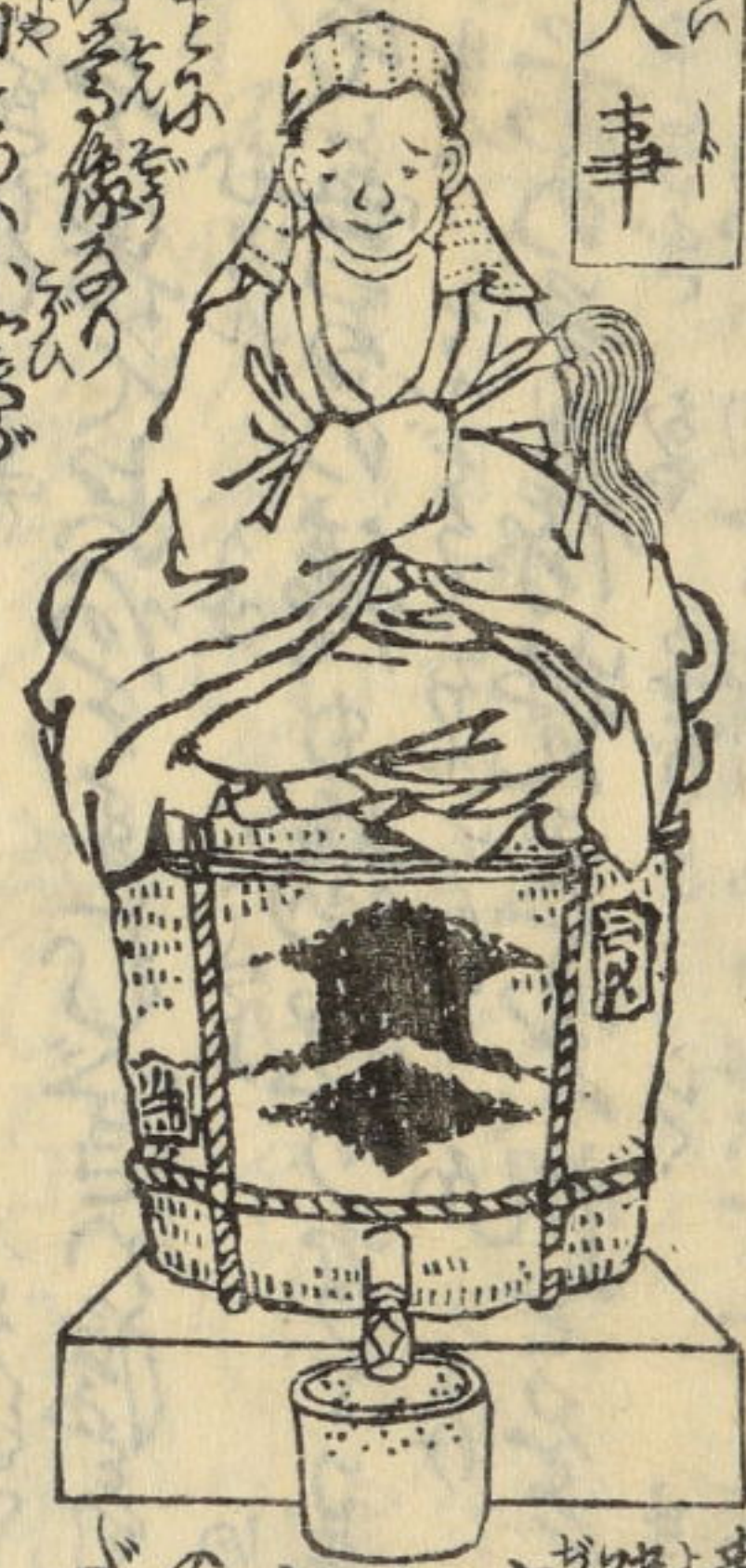
息子叔傷和尙（子）榮秀小首（子）秀小叔（子）
令根の備拍（子）又ひ湯水（子）若く果ては月と小始の怪の
完せおけりる不利不利との小熟麻田（子）りて大元とある爰小松（子）
身代（子）の山（子）為所多（子）く下（子）里（子）怪小松（子）き為（子）爰（子）方（子）す（子）て（子）、（子）野（子）力（子）
背（子）と（子）野（子）多（子）く（子）お（子）ひ（子）山（子）子（子）樹（子）り（子）火（子）災（子）小（子）係（子）り（子）津（子）長（子）一（子）遍（子）
性人（子）救（子）弟（子）の（子）辛（子）若（子）と（子）小（子）於（子）て（子）空（子）く（子）鳥（子）有（子）と（子）か（子）る（子）と（子）ま（子）ま（子）り（子）叔（子）傷
和尙（子）の（子）隠（子）居（子）和尙（子）と（子）なり（子）女（子）房（子）大（子）師（子）奉（子）務（子）と（子）祈（子）り（子）長（子）と（子）振（子）
古（子）糸（子）の（子）糸（子）糸（子）と（子）追（子）出（子）一（子）新（子）小（子）經（子）海（子）の中（子）法（子）と（子）更（子）恣（子）ま（子）く（子）小（子）我（子）
言（子）小（子）募（子）り（子）弟（子）小（子）茂（子）成（子）多（子）く（子）ま（子）り（子）小（子）後（子）後（子）元（子）親（子）親（子）親（子）世（子）間（子）の（子）冥（子）合（子）
小（子）逆（子）倒（子）さ（子）き（子）爰（子）再（子）勸（子）後（子）見（子）和尙（子）孫（子）の（子）浮（子）乞（子）上（子）人（子）無（子）小（子）孫（子）
乃中二二 十三

北鶴の朝（子）す（子）る（子）家（子）の（子）索（子）所（子）と（子）宜（子）あ（子）る（子）多（子）女（子）房（子）大（子）師（子）公（子）た（子）と（子）毎（子）へ（子）屯（子）
人情（子）の（子）水（子）氷（子）と（子）押（子）て（子）弟（子）の（子）後（子）悔（子）及（子）小（子）孫（子）と（子）の（子）と（子）ま（子）り（子）及（子）此（子）
の（子）乃（子）小（子）偽（子）令（子）小（子）首（子）の（子）廻（子）ら（子）む（子）勸（子）通（子）止（子）ま（子）り（子）親（子）と（子）堂（子）院（子）考（子）正（子）の（子）
ね（子）流（子）ね（子）を（子）一（子）個（子）の（子）何（子）と（子）む（子）此（子）を（子）死（子）を（子）小（子）孫（子）と（子）案（子）掛（子）る（子）と（子）い（子）ふ（子）
兵（子）也（子）も（子）救（子）む（子）と（子）存（子）心（子）也（子）龍（子）陽（子）魚（子）の（子）畫（子）き（子）と（子）宜（子）角（子）文（子）各（子）由（子）百（子）計（子）
と（子）小（子）を（子）果（子）て（子）其（子）何（子）と（子）も（子）む（子）む（子）と（子）浮（子）乞（子）性（子）人（子）獨（子）を（子）負（子）負（子）と（子）背（子）負（子）
あ（子）と（子）と（子）無（子）言（子）の（子）種（子）由（子）橋（子）便（子）り（子）な（子）く（子）果（子）見（子）の（子）種（子）由（子）は（子）小（子）よ（子）う（子）あ（子）
存（子）前（子）の（子）身（子）像（子）梵（子）天（子）由（子）人（子）帆（子）と（子）を（子）亡（子）命（子）の（子）身（子）陀（子）と（子）な（子）り（子）ぬ（子）ら（子）ぬ（子）
是（子）と（子）後（子）小（子）親（子）の（子）抹（子）子（子）の（子）樂（子）と（子）守（子）る（子）孫（子）を（子）食（子）す（子）る（子）と（子）は（子）後（子）が（子）た（子）る（子）
盛（子）衰（子）榮（子）枯（子）の（子）理（子）天（子）令（子）小（子）恨（子）と（子）さ（子）む（子）如（子）此（子）一（子）分（子）と（子）是（子）と（子）是（子）と（子）と（子）

不經濟散財事之雜物

樽ヶ大事

○酒樽の
大なるもの
何れにせよ
酒樽の
大なるもの
何れにせよ
酒樽の
大なるもの
何れにせよ



无多如来の尊像



○如来の
尊像の
大なるもの
何れにせよ
如来の
尊像の
大なるもの
何れにせよ

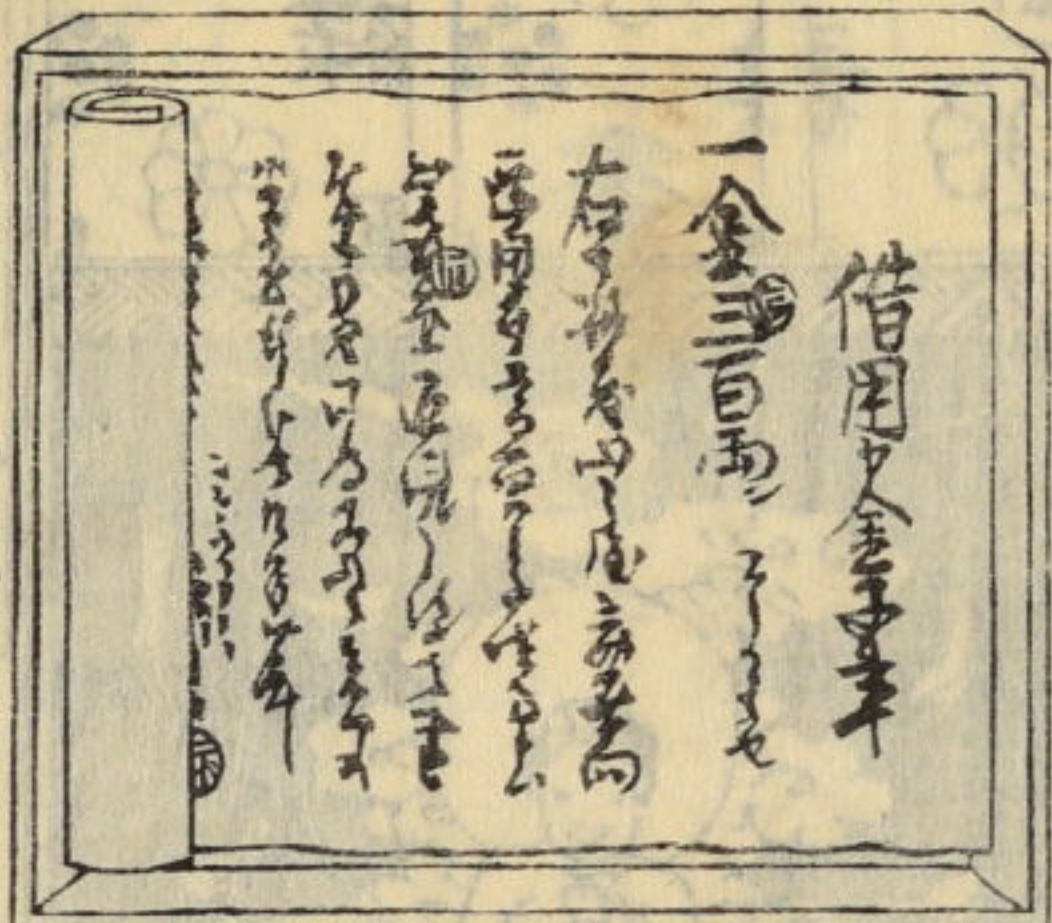
○樽ヶ大事の
大なるもの
何れにせよ
樽ヶ大事の
大なるもの
何れにせよ

○酒樽の
大なるもの
何れにせよ
酒樽の
大なるもの
何れにせよ

淫乱性人の於文箱

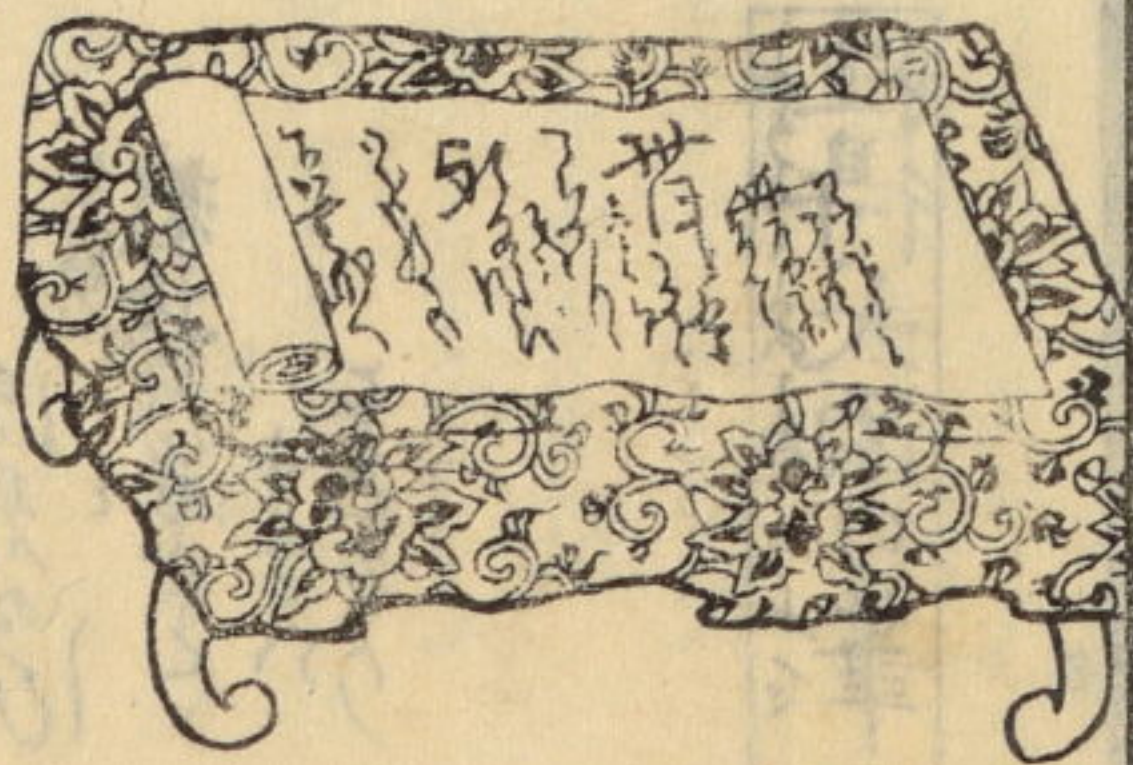
○淫乱性人の
於文箱の
大なるもの
何れにせよ
淫乱性人の
於文箱の
大なるもの
何れにせよ

証抄印の真蹟

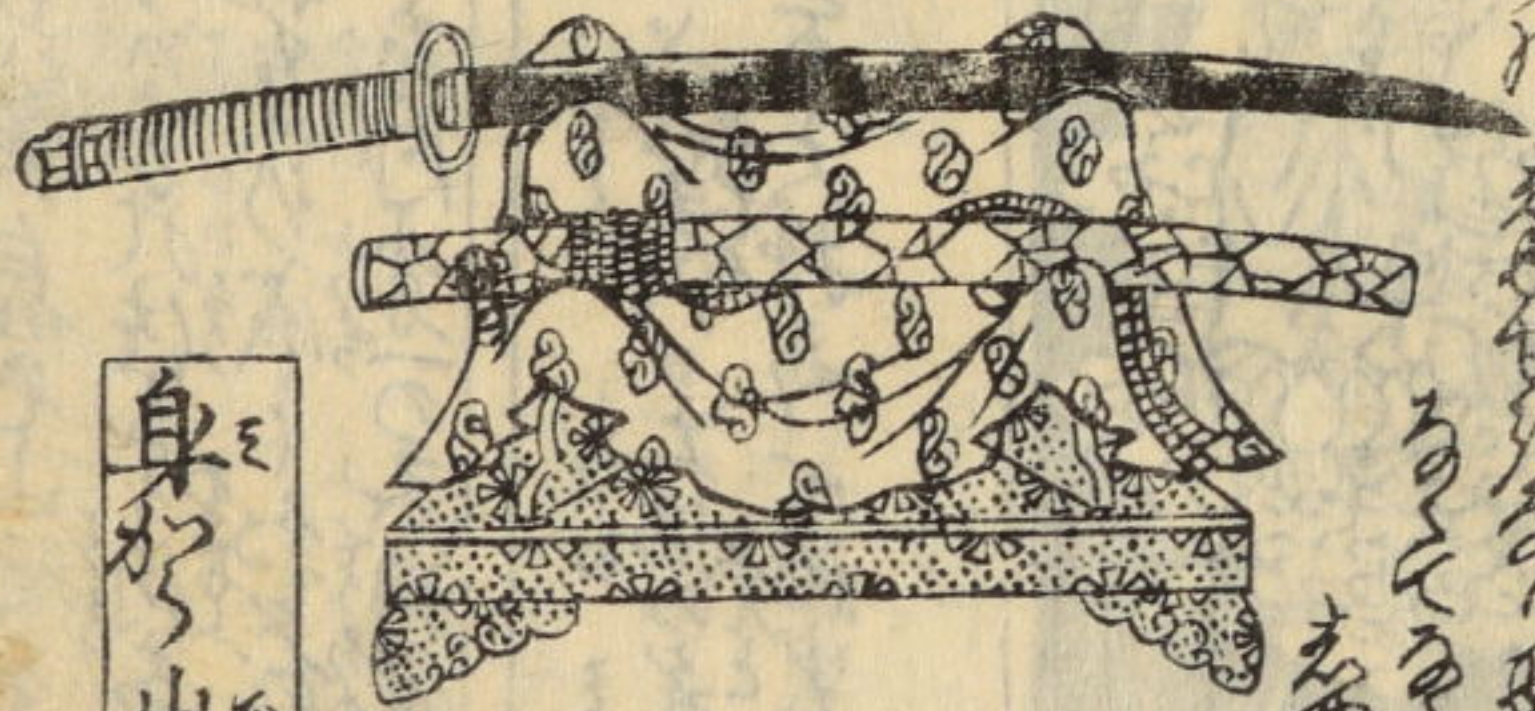


○証抄印の
真蹟の
大なるもの
何れにせよ
証抄印の
真蹟の
大なるもの
何れにせよ

○証抄印の
真蹟の
大なるもの
何れにせよ
証抄印の
真蹟の
大なるもの
何れにせよ



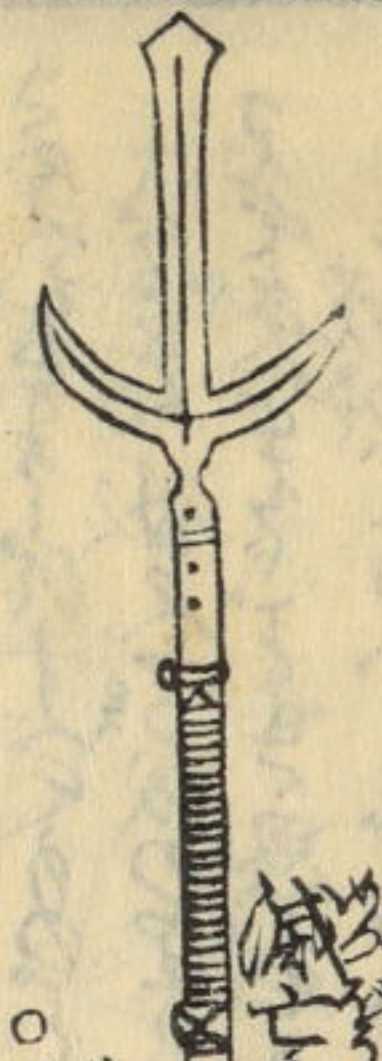
身が出づ錆刀



○身が出づ
錆刀の
大なるもの
何れにせよ
身が出づ
錆刀の
大なるもの
何れにせよ

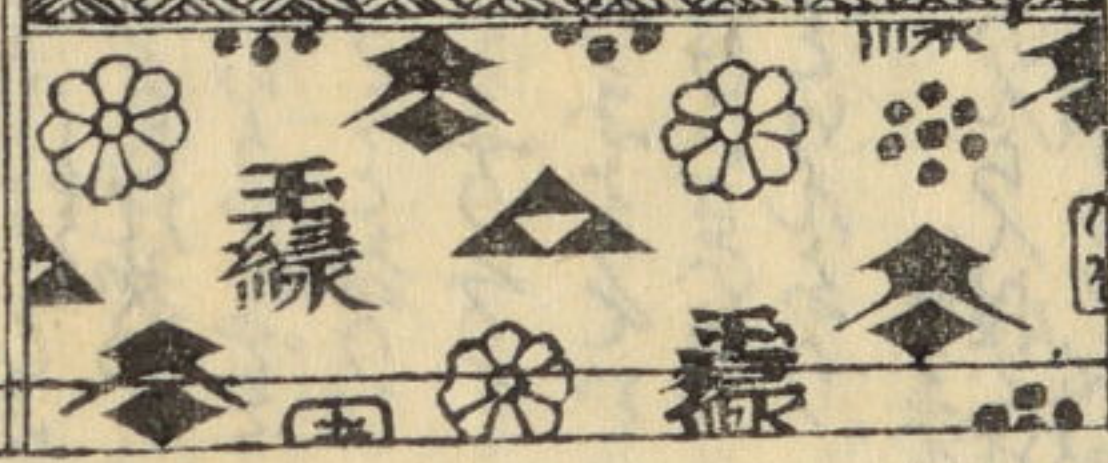
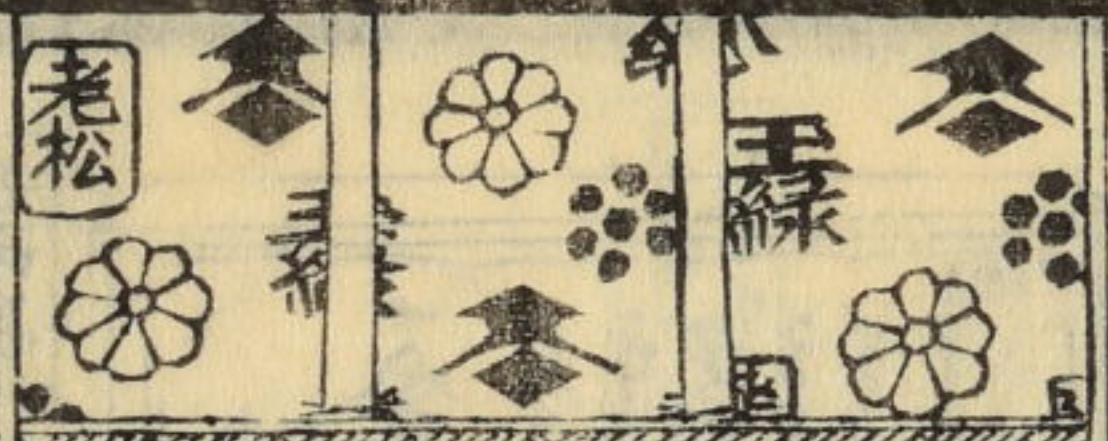
不取締のあじ槍

○不取締のあじ槍の鼻毛山... 北の具足するのあはれは... 軍物より成り... 減亡するに及ぶる家内... 不取締なり



三損の身

○三損の身... 大酒の身... 三損の身と... 大酒の身と... 三損の身と... 大酒の身と... 三損の身と... 大酒の身と...

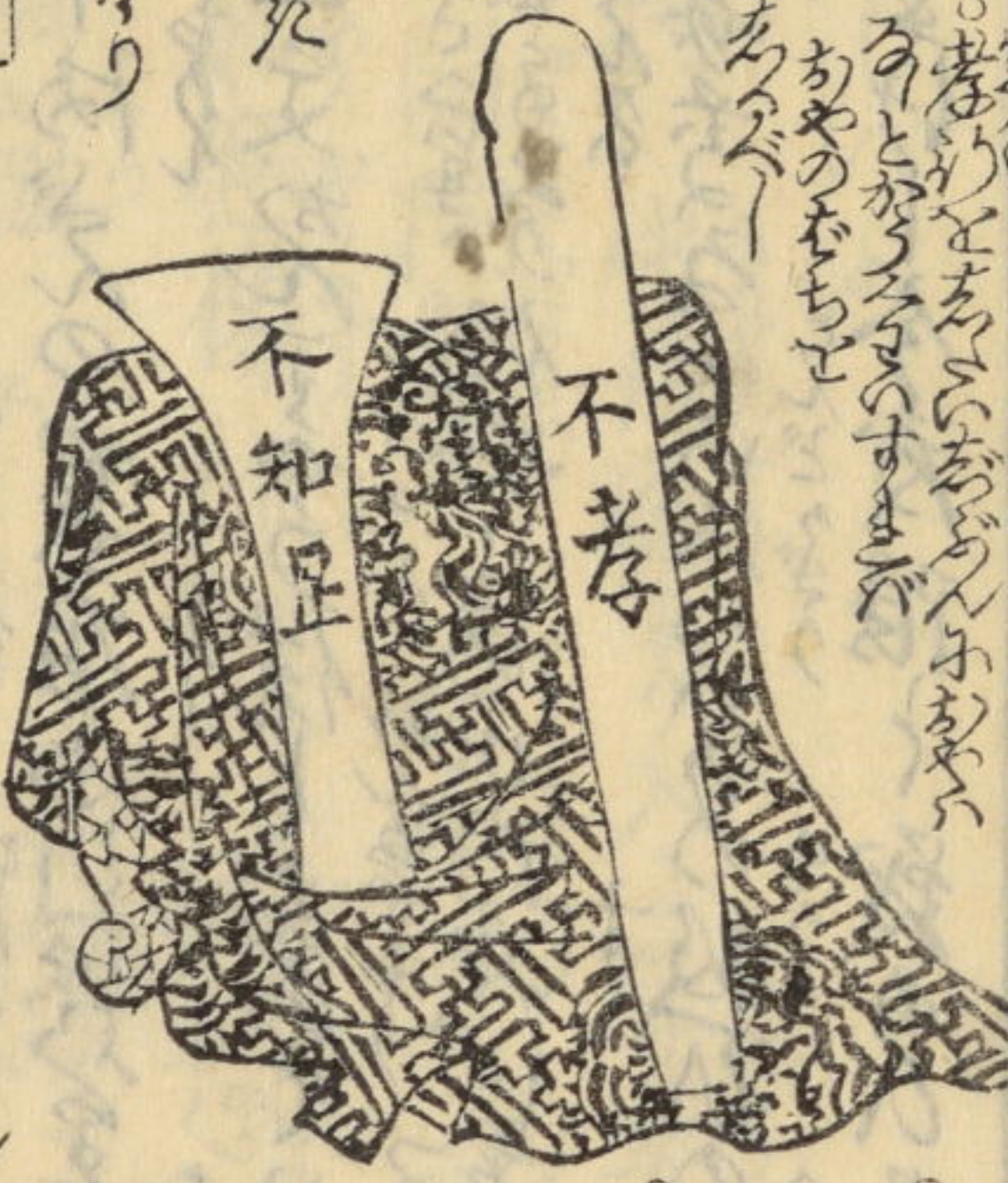


性得大酒の筆

性得大酒の筆... 性得大酒の筆... 性得大酒の筆... 性得大酒の筆...

親乃撥 金乃撥

○金乃撥の... 親乃撥の... 金乃撥の... 親乃撥の...



○不知足の... 不孝の... 不知足の... 不孝の...

馬鹿透衰報 嗔所當極欲 多文育結傷

分散二足三門額

○分散二足三門額の... 馬鹿透衰報の... 嗔所當極欲の... 多文育結傷の...

知る者なるに考ふ初る患ひ子孫亦由らば初る親類他人
の事トよんぜん
位牌新敷致せんてん悲を九尺二間の裏店と一字再興
多ひ不經海教射支と身以後悔を身一の各所なり

南無山仕損支

此の山のまづさふりり本令の損者を安んじ

仕換支の傍錢の測ふりり無平元れ一文あり身代為城の

古跡中々やはぐえの裏店不仕換支米榎の底と見えけり

たり平元の一丈ありり傍とあつて法人とあやませる成平

乳借とる人繼も有り伯母山の山内池は若草花野のうと考へするふ

各やうあえん毎考へるどつひの救ひのくく免借の考へるおどふ

合方して様とけり今及限と幾のひ平元傍のおんやうとる

なりありしといふ

貪婪山強慾持

中後道より入る等要及の迷所なり

本地錢程光闇陀如来

黄金佛 吝嗇利欲和尚閑基

非義非道如應像

血小とりまは成也るおせおひ右のおんやうとる

思想菩薩

利不利と様とけり利天より換りる本令根大事の化あり

十二面觀是恩

その上二面とてその小あつて十面成徳の考へる

出の貪婪山強慾持

本令貪吝嗇和尚の閑基小く年季考

公の中迎も地乃れ考へる死宣成格と恩とと満小下山は僅の元手小

山は登り入るの蔓小死付て貴山と閑基の小私慾を考へる

小宮敷にひきつりて因徳張田の格成と書附区の小境内ハ
之角小一七事と角成と角成理と角との角ととづき足不垣成
結ひ世間とるもの堂塔伽蘭庵寺あり
抑素山の等要道中一の迷所ありて他ハ古の系は廣きゆ
止りりり殺風系好懸の海味く面の川原く流し不理屋と
りる養屋りりその廣大ある限とをる令のなる木は方小敷
幾世の中とるるを知らむとこの令のなる木といふハ極り相の気
情光の気世々其の相逆さぬ気必多栗気むぐじ木屬すを
種々の気生茂里懸不垣と知るは養不懸の懸懸とらざる
ありて扱方物と離さむと扱方不懸懸情のなきと懸と光付小

芝ば里推考の向小水小飛歩りく扱方不懸懸と栗養
かたは成懸び取考の向考といふ考多し是より不人株成依
堀汲りの城跡取と切通し養理不知身不知我之れ
懸小園を築むと掩ひ養理非方とゆが養派の石
橋敷成派返影の柵と懸の門不存り養不從來と苦の
舟形と安並を分る毛井の小判の橋を渡り守成奴有
枝の隙鬼堂あり傷家也と養奴佛部也と有枝隙鬼と
いふ懸小令の妻人あり一石懸養早橋といふ養禁山の栗
の院是あり文盲島味れあは是と養約の束成し和る養
番成りて令成海く成養考分限と思ふハ大いなる養あり



○こがねの山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場

利慾の道

○こがねの山
○せいの松
○古銭場

金か億

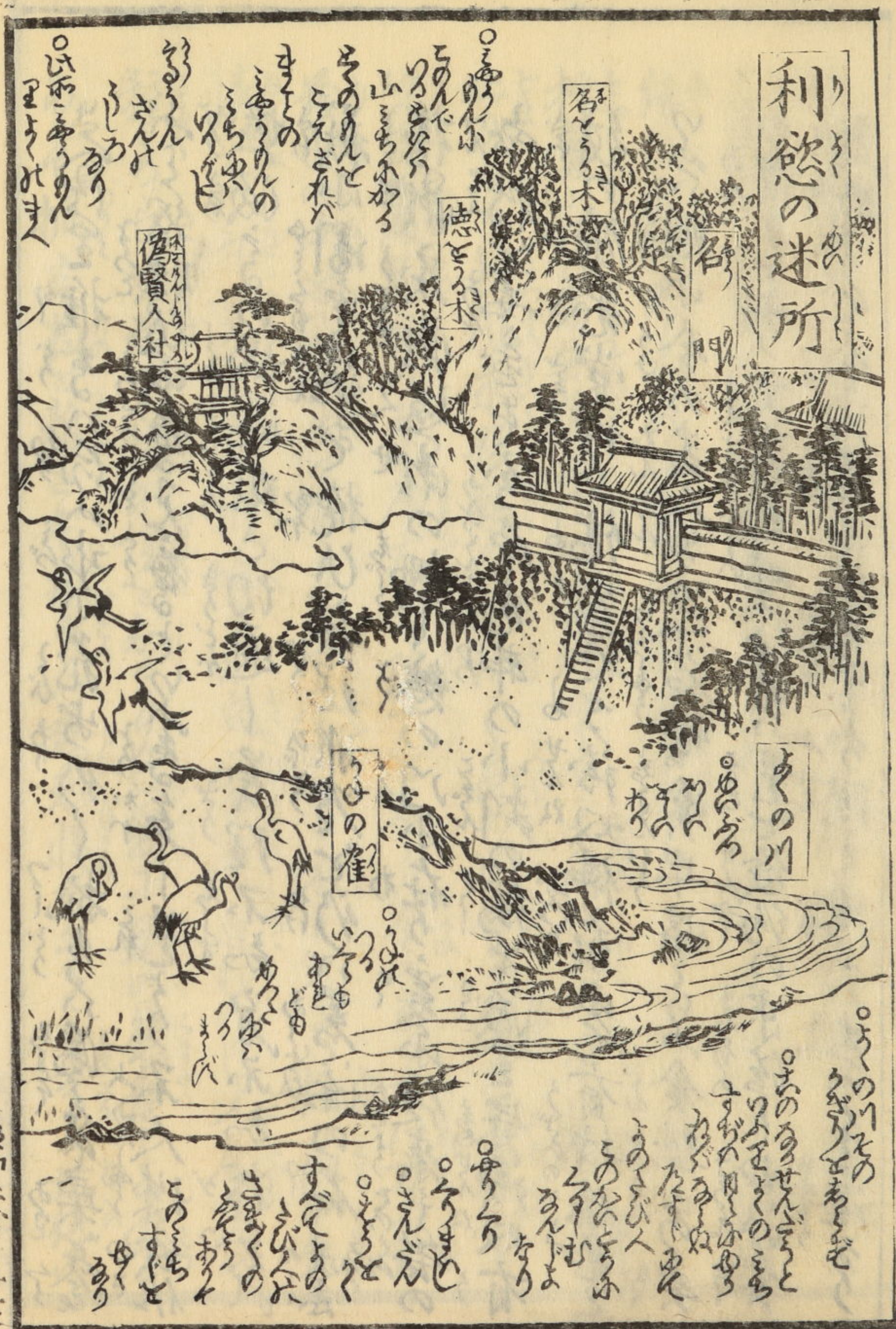
せいの塔

かひが淵

○こがねの山
○せいの松
○古銭場

むけの鐘

中銭道



利慾の迷所

谷門

谷のうき木

徳のうき木

○こがねの山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場

徳賢人社

くわの川

くわの川

くわの雀

○こがねの山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場

中銭道

○こがねの山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場
○黄金の山
○せいの松
○古銭場

儉約の人道才一の勢を以てひひりて費減省きと云と確し儉約小
節よく令限を賜へ教まこと成情すむ旋一取べきと云と其意の
費減一節の是と儉約とのみ音審ハその表かり財を令りとする
教すことを悟む長き浮世小纏き令と云と其味物の味と云と
見ざるを成りては小性も一生令の友人とかり生を令り死して
他人の為なる文盲愚痴の契りあり未世ハ各世と生れ赤裸
と生を更亦人小性も一阿房の塚小若者と生下彼塚
小生を妻と生せんよと云と我好む所ありて云と小好具は及
の扱及がりの好具は及る人多く亦小く巨く法を是より
十六利秘堂あり其の扱者種ごと減さぬや巾この扱者及

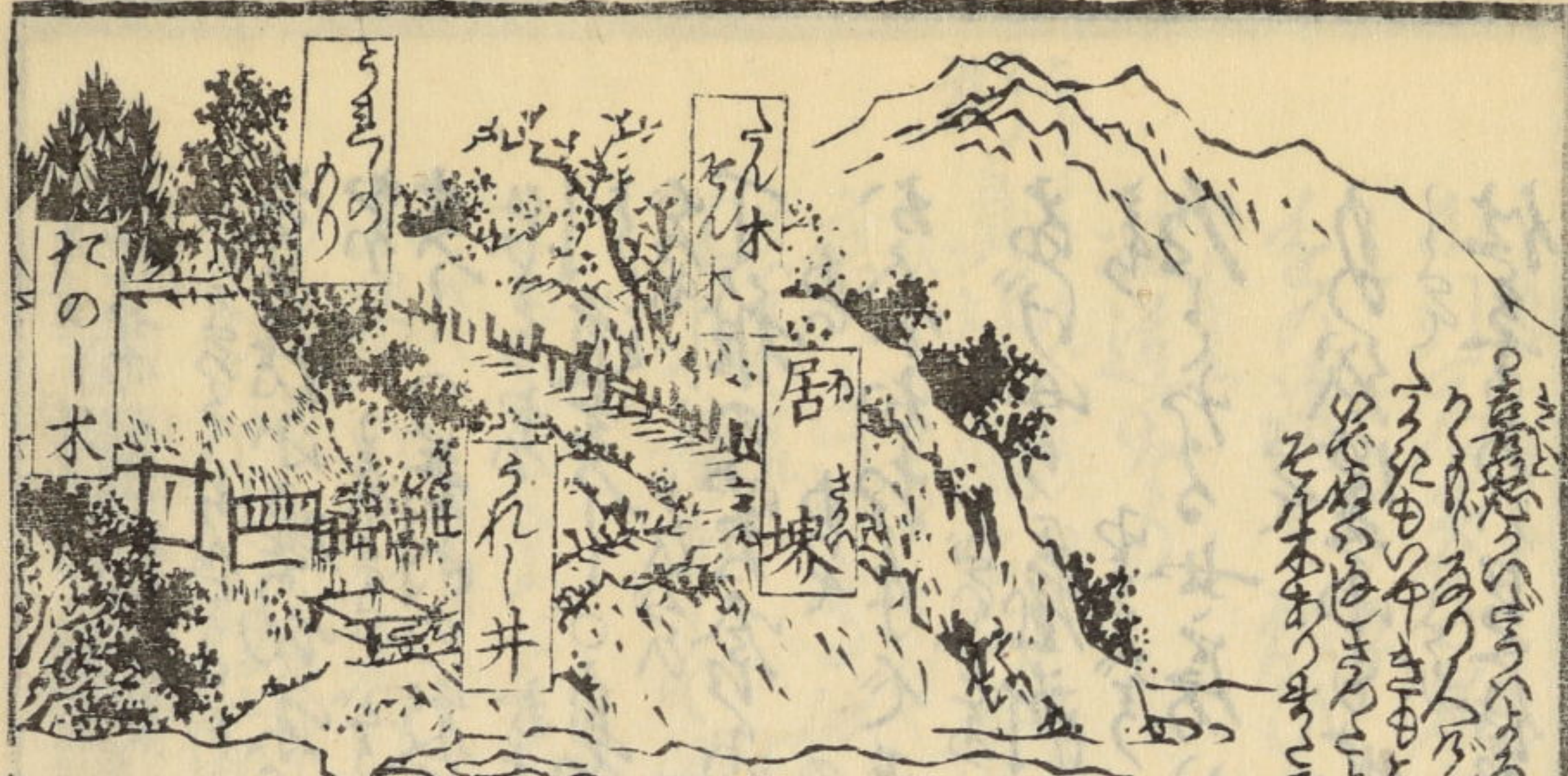
必て建てる所ありて是小安座の非乃菩薩の赤子の腕
と福なり人の秘をせり願て由は己慈恵の如くあがりも有死
身程也相付て云貸の扱者帯に況るふに凡世小行りの
多小令一と令る死者生る甲斐あると云と令成多く扱者考
人由教ひて麻由利小及文盲も知者となる令れと云と
ちくも令残言小あふと令の徳を以て替らばと云と云と只
素命と云と命は令心も及たむま令の妙なるより令理と云と
道理令の乃小引込是より令の翼多して飛令る人の面を
替りて腹をのちけお子の痛を尋ね子に令月小若者
其の成人をせむと目夜令の夢たり令の純文一員と云と

小千米紙多く懸へる下の價を以て喜云乃小をき所ありて好
智小更なる様像方り半枕屍喰親者あお秋の海深く帆を
係る帆を繫おき後小山と多く熱不多し利總の迷不なり
その道筋への進從輕荷れあ莫火の進お成送り媚福ひ
一足靴の思あり此乃彼乃の屈曲と一厥いど令の曼不九竹
山小登りりのハ巧言冷色と以て表不兵藤と降り裏不
火の車の若患あり發刺の奴とより為水と踏ぬむ若む
艱若と經て山小著る修治若ハ事不憐と所嘘八百の法と
乃と是と法不係るといふ山小之於已於の七本於り
令とと精修とらハ橋あり山子玄冥の跡茶座ハ果あき

後一之山を以てし方(法)也(後) ○ 毎白卷の玉 藤森
活流の續 ○ 大面の仮面 納の屋敷後百方のの屋より考附 ○ 修物
他の田方 ○ 抄殿子筆根の長若と松と馬不家なる繪巻物
と介のりすこあり 山の奥の止やふ七面書あり総る鼻下
谷不殿建立をかり獲摩堂不修法不引ひ一為情本あり
出まの所ゆく他もる 茶立由ありといふ

筆要道金銀都會の湊

去の所ハ民とも徳海舟一の燈花の地ハ所救珠小多し
み長ハ二季ハあしと群集カハ大福所元町令銀出入所仕
入所小遣所そのあつ大が小が小若人とも小程その町入り

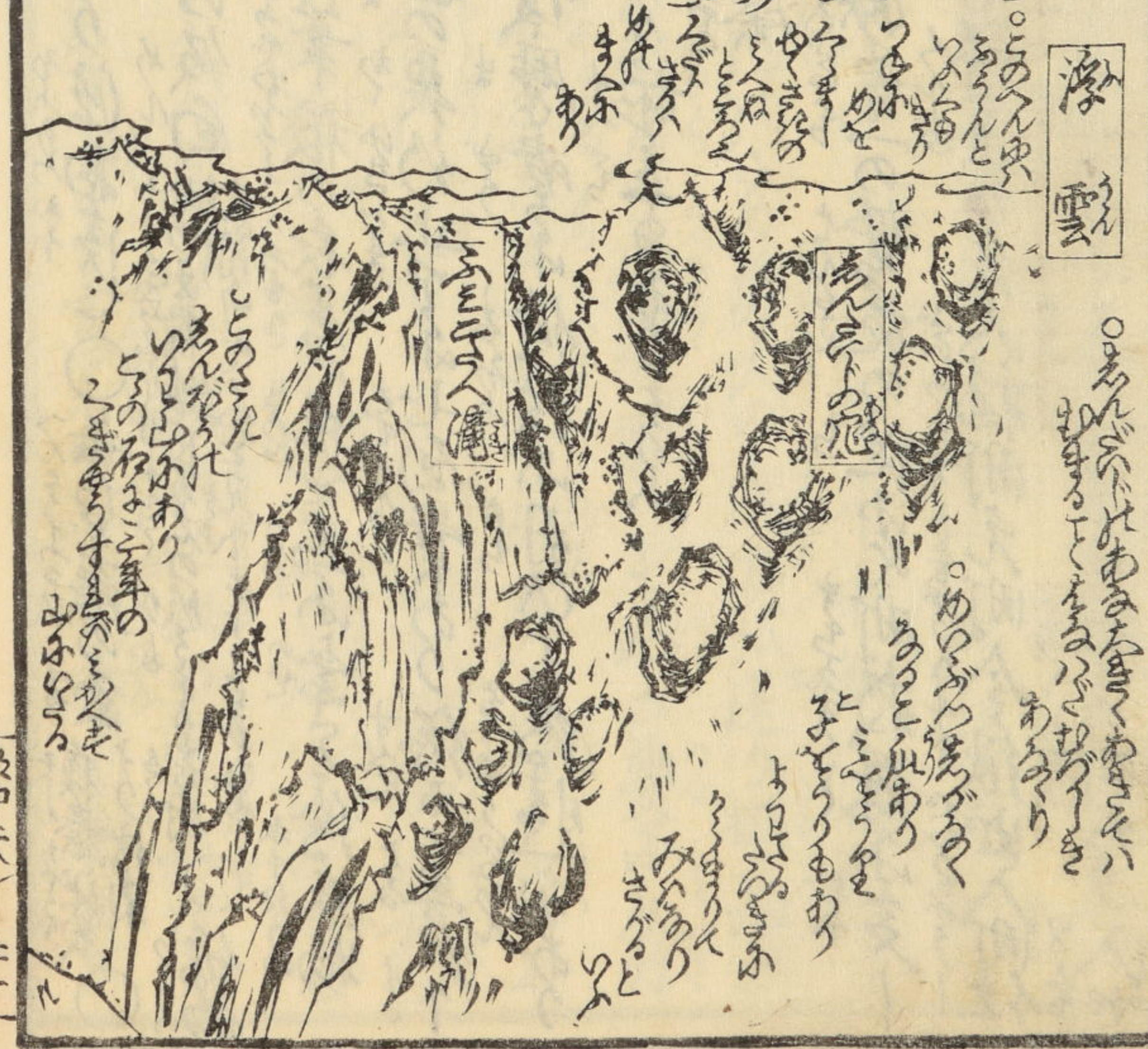
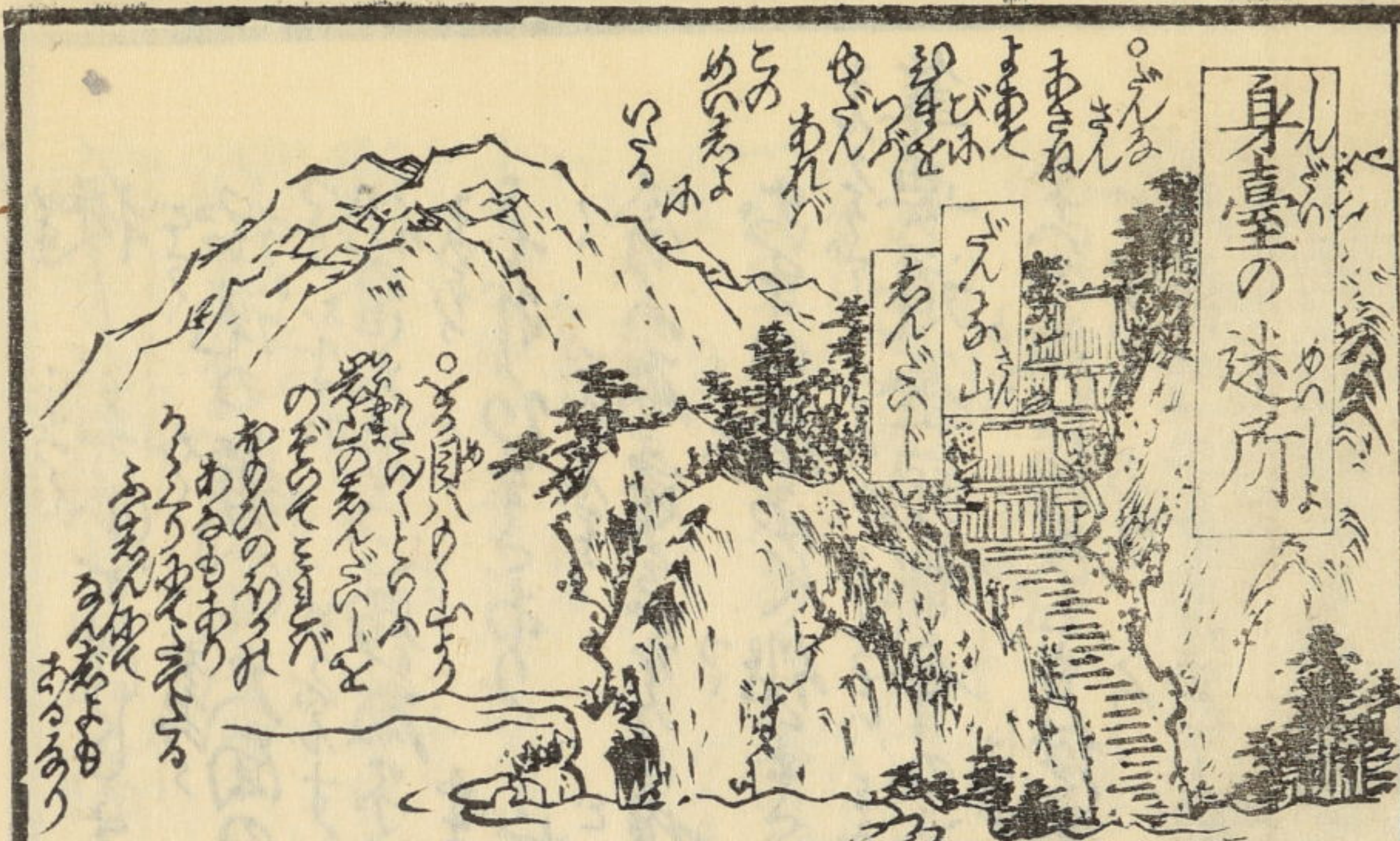


○きんぎょのせうりやうびのり
くわりのりやうびのり
うら井のりやうびのり
せん木のりやうびのり
たの木のりやうびのり

費の多木

下り坂

○下り坂
せん木のりやうびのり
たの木のりやうびのり



身臺の迷所

浮雲

○せん木のりやうびのり
うら井のりやうびのり
たの木のりやうびのり

○せん木のりやうびのり
うら井のりやうびのり
たの木のりやうびのり

○せん木のりやうびのり
うら井のりやうびのり
たの木のりやうびのり

○せん木のりやうびのり
うら井のりやうびのり
たの木のりやうびのり

小十房 留橋有柳と渡り一割二割の利徳を覚て割割方小割の橋
より後小磨功木なり此所傳後魚を所並ありは流石橋も
多し。是所の教傳小磨つと傳令の古紙小年紙月紙の
引道多し。息子の宿泊所を試ひ其紙是者の私徳令
丁稚の賞合小枝道あり。亭と酒を香ぐ女房の癖酒
か合おた存を香るるひ終小一鉢二鉢の目酒餅の美智
あげ中の産所の炭薪味香傳小其心費多く身上の後
乃とかる女房の美屋を心費るる何可取由なく橋の
りの紙世世中もせば其目と橋長くつるもの紙がり人々
仕立のの紙は世の紙ひまを人ふふのむ費多く屋の園紙

小引乃多き身上の後乃なり隠居の佛さんまの賽紙
をの後生形ひ梅なり令を乃小合紙本家の痛もなる
後道あり

好真皆働色の道

好真皆働色の道 けしつゝ人間身一の迷所多し其編ふらう
意のしは流る低ありは友小るいも低いも色のたつ小意の側あり
清水橋ふく泥水多し愛小首更七手更に深む漱なく一命
ともあまると云意の核橋より令限人相紙利由意の雲流
小迷ふの先入るを迷せあぐる人の其見も耳小入る思
業の介れ乃紙あり
○比翼鳥。連理枝。結の神の社あり 月老社と云 乃中二八廿二

逢身八契

色の乃好臭暗道ふある後所より

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



不逢狂乱

人の御身
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



障の口説

見會の番頭

出でんはなをよめる

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



合せる氣半

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



意氣山の飽の盡

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



下午の愠性

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



傘の夜の歩行

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

斤々の落顔

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



青樓全盛の櫻見岡 二品堤の中央を門の中より

有頂天神社 後うとけははるるに定と理直の由梅丸小

通る神 色あを色由生れ本由老若男女あはるるにその神の御下

大夫松 緑とるるにびより苦海の中小育たまの松小育るるを

火心木とりの子をたす教ふつき虚の川の水上流るる方小を

止む柵あまのまをまの水泡と消客小橋多き世とるるに

手名をそりきりてのそ者小及を火流へ橋き音のり等あ

橋氣後期ゆまのそを影の凡流牙と繋る橋る橋小舟を

小便形をる橋城橋玉とりの教者者りて虚の川小橋を

身代と祝益の蓮根より由多く穴をあけ大平の焼敷のわ

迦蒙朋とほて幼妻の別馬と標宗好院とるる是玉と願け

城と願けお成願け身と失ふ男小願珠の名ありとい小柱女

の客小婿と電とをむるハ後世小中なる死りのあり

山の神の祠 妻皆同疾坂坂の真中亦ありに八丁も八丁小ありと

小相傳曰加家阿左門情女房於礼といふあ七去急使の

女大物とむび電の軍と中杖伝乱伝の豪傑小で恩ひ形

小才の城と橋へ朝麻正好益成秀發東の清小出法て尾解

急手小家軍配と毎へ目酒大酒小あるあいの古戦橋へ病

廣向腹小紐の筆とんせ付不理屋小橋とまげは解とほ

身うと小児のどく小扱ひ軍を成指揮してそ出は成

ゆきまきり小角張あつて半はむねの人の善悪を言ふ
化を辨る善き目と悪き目不知なる不足と云て彌漫せ
事と凡人の神の魂宣ふ貴が忽ち罰に成るやうなる

なるお小山の神のふまゝの神の神もいふ

内儀清浄の屋代 妻皆道小存りとの於神標の家子伝納

ゆて情を深くまて天れや教ひ常ふは教せ少く流産小

ゆつる人とも面中を教ふに別して経計の業をゆひる子孫

の為小子の世を育むるあやうく教ふ最なるゆふその子孫実

ゆきまきり後孝中世法徳のふ内儀善神と申し清浄の

屋代中て家内安全と申すゆふと云

逢愁街道の後悔道の續きより常小旅人偶然とこの道にゆふ

係る迷所あり月と知る者の爰小行ふと獨り悲む能くなり

逢愁街道の幸不幸れ人禍福とも小迅風の如く登り坂を忽

ち下り坂と有る有為精愛の石筋ゆてゆふ大形小常と氣を

居ると死の後悔を小する所あり 倒轉先の杖をつぐん先小

立道連のちとこのふ

南無三方荒神の社 との社小百目の説法ありを放屁可也種色と

なをよめめをすおめめる 四跡なり。跡の勢何ととも何事由

同小ありは皆後悔を小なり

勘堂難澁さん志よの北上むの千手観音

風奴の守あり

海方 父は生孫母の乳を食けし遊んで喰ふれあはる程

鼻欠地藏堂 美州の牙持取湯 瘴毒れあ鼻欠の苦像とす

愚轉堂 夜あ大洞小浮き教財令入とをた米ぐるい小

支る形 痛痒巻よせむのここの後悔乃の迷所

此包すて骨紙の令法を野へぞ元日小大海目と心い毎月

毎自小いり店賃の少免小はまる風候あり極と進り定

例たり「あはありとあふ公の山橋 宿の嵐れ吹ぬあふトの

古方とあ考小江と舟一寸先い雷を津向い水小世を渡り

候よ候の川の流光陰の矢より由迅く性成二方の岸小ま

や弱と雲杖後梅ら小雲のく詮る丸魚風あり児事漢で

おの道小入のあ

苔野一心事 出けの細乃小なり 碧著天神と迂一記る念は

樂寺境内けりく一木の美辰なり家の入樂の谷が園り古

川の水さるぞ流し苦言方由たさるす氣樂にけし福祿

道樂事五重の寶塔 無分別性人造立

出世の乃小あるの

つゝ初の本と以て送り奉中 賢屋のなきをりして上テ下テ

世活き放蕩あり自ら嘆よて云一升入 瓢ハ一升入 醜

垢珠小袋垢珠掃也由追付る笑ふあまが乳屋小

...

一は其の得ありと操賢人の心小りども門公の令儀が扱つ
 不と能くく味い管は徳ひ不持もめれ出ぎくひの是也
 扱者の得法ゆへ性更あり此爾を三塔に仕舞う玉極の
 体熱火の車の若患あり陸は徳も入る徳たもありと云
 借が大名入 此神の地花井のゆきさ款ゆりに扱つ極の
 借もが宛初返さぬ本まづ平保まのこ居まり大名神
 不居言えんしぬも代つる儀徳のまじり小徳り切令の
 返淋忽地心あり地翁小引智燭磨大玉のぬくた
 死分の峰 親分山衣法平借ぬ扱者亡命の回地逆るが
 死分の峰

一の衣ありんぬまをまがより経送落し扱九械とりん
 借令引清雜物の百貴の形小編ゆ一益一ツ竈
 〇猫の扱蛇貝ぬんままご佛の名号。古巻にばぬのけき
 赤わり
 金澤山福祿延壽隱 岫山に正連正路のま出たり
 道ふて室の山安樂の初とりふは方令限の若山ゆへ
 い身代と云る買場之白雲送り株とあり黄令れらる
 髪なるくはらる目出滝ふい出世疑法ゆ小界り若ふ
 門あり福をむるく波風うぬ初ま喜成り若く業と
 祝を霊山なり

精おのりんんて何れに考へても先陰の笑障の早死
 一瞬間あて千里の藤も啼きと死あり人間一生の道中ハ故
 一瞬間あて千里の藤も啼きと死あり人間一生の道中ハ故
 迷所の橋乃久遠入を正路の乃と志速小室の山安樂の
 都小つはるぐつゆえく小児輩 怠りあふふ
 ○是れ小のまゝなる迷所ハとるんふくうく志すはづりて
 出版しつゝい

東都 一筆菴英泉画作



乃中二三共八了

古今 秀句

落しはさ

新刻 繪入 一冊

此冊子ハ古今餘韻の秀句を採りて
 勲徳の乃とくふちり初巻の成句と
 笑す妙に抄をり合ふて志す
 乃お救いかりんさす

人間一生 獨案内

善惡道中記

中本一冊

一筆菴戲作 溪齋英泉画

人間の一生と道中記ハ
 乃ぞく子付流の成句と
 乃き勲徳を撰と考一
 と考せし清浄の乃の

成田銚子 鹿嶋香取

道中獨案内

一枚摺 袋入
 下巻の國十一郡と教を片成田不勲系
 乃てはひぬま教者かまうりひま守
 乃その水陸里教と考く志しをり
 たびは乃考乃思あり

東都書肆 頂恩堂 本屋又助梓

